

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度 総合	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①選択科目を多く設定している教育課程に満足している生徒が80%以上である。	○選択科目希望調査を実施し、開講選択科目群や時間割を調整するとともに施設整備を行う。 ○選択科目説明会を実施し、実施科目内容の周知を図る。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択科目を多く設定している教育課程への満足度は90%以上に達した。生徒の希望する履修講座を増設したり、科目の修正等を行った。次年度においても、生徒の多様な進路対応ができるよう特色ある教育課程を編成するとともに、選択科目の実施において、必要な施設の整備をより一層進めていくことが必要である。</li> <li>・自分の学校が好きだと感じている生徒は70.1%であった。実施した学校行事について内容を工夫してきたことにより、昨年度(65.5%)からの増加は見受けられたが、目標の80%には届かなかった。次年度も学校行事の見直しや生徒が帰属感を持てるような学校の魅力づくりのため、生徒・保護者・職員の見解に真摯に耳を傾けていく。</li> <li>・「SDGsみらい探究」の活動に対しては、昨年度から満足度が増加し、74%以上の生徒が満足している結果となった。また、みらい塾を中心に、生徒が主体的に取り組める探究活動を行うことができた。次年度においては、フィールドワーク等の指導計画の見直しを進めるとともに、引き続き本校の特色としていきたい。</li> <li>・施設整備については、生徒の満足度は64.3%と目標の70%には届かなかった。なお、校内のバリアフリー化等整備が行われている状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位制高校の長所を活かしたカリキュラムづくりや具体的な取組を打ち出すことで保護者へのPRにもなる。</li> <li>・単位制で特色があるということは面白い。単位制の学校で受験競争がないからこそ人間教育をいかにするかを考えてもらいたい。</li> <li>・「充実した学校生活や教育活動のために必要な施設整備が行われている」と感じている生徒が70%以上である。」の具体的数値目標が低いように感じる。</li> </ul>
		②自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	○特色ある学校行事等を積極的に取り入れ、学校に対する帰属感を高める。	A	B	B		
		③「SDGsみらい探究」の活動に満足している生徒が70%以上である。	○地域や社会の外部人材等の協力を仰ぎ、講演会を実施する。 ○「SDGs井上浦造みらい塾」の生徒が中心となり、生徒一人ひとりが自分事として捉えられる活動を行う。	B	A	B		
		④充実した学校生活や教育活動のために必要な施設整備が行われていると感じている生徒が70%以上である。	○校内の清掃活動や美化活動を定期的に行う。 ○安全点検を毎月実施する。	C	B	C		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤授業によって新たな知識・技能が身についたり、思考が深まったりしたと感じている生徒が80%以上である。	○授業改善のための研修会・教科会議を実施する。 ○授業アンケートの結果を活用し、授業改善を行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業によって新たな知識・技能が身についたり、思考が深まったりしたと感じている生徒は95.4%で質の高い授業を提供することができている。また、授業中、説明する機会や自分の考えを発表する機会があると感じている生徒は87.3%であった。全体研修や個々の職員による教材研究・授業改善が進んでいる成果であると考えられる。今後も授業改善を進めていき、より高い具体的数値項目を目指していく。</li> <li>・意欲的に授業に取り組んでいると回答した生徒は88.6%にのぼった。授業中に説明する機会や自分の考えを発表する機会があると多くの生徒が感じている結果につながっていると考えられる。今後も生徒が意欲的に学習に取り組める授業をより一層充実させるため、校内研修等を充実させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各アンケート結果からも生徒は授業に意欲的に取り組んでおり、学習したことが自身の成長につながっていることを実感しているとともに、アウトプットをする機会が十分確保されていると感じていることがわかった。</li> </ul>
		⑥授業中、説明する機会や自分の考えを発表する機会があると感じている生徒が80%以上である。	○授業改善のための研修会・教科会議を実施する。 ○授業アンケートの結果を活用し、授業改善を行う。	A	A	A		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦意欲的に授業に取り組んでいる生徒が70%以上である。	○授業改善のための研修会を実施する。 ○授業アンケートの結果を活用し、授業改善を行う。	A	A	A		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧各種会議等において、生徒に関する情報交換を週1回以上実施している。	○定期的に開かれる校務委員会や学年会議などで情報交換を行う。 ○気になる生徒についての情報交換を適宜行う。	A	-	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務委員会や分掌会議、各学年会議を定期的に行き、生徒に関する情報を共有することが出来た。多様化の度合いが高まる昨今、次年度も生徒情報を共有することが益々重要になってくる。</li> <li>・学校生活で部活動・生徒会活動等に積極的に取り組んでいると回答した生徒は66.6%であった。ここ数年、部活動加入率が伸び悩んでいるが、生徒会活動や井上浦造みらい塾の活動に積極的に取り組む生徒も増えている。</li> <li>・いじめのない学校生活を送れていると感じている生徒は86.6%であり、昨年度より約6%増えている。また、悩み相談を親身になって対応してくれていると感じている生徒は77.9%であり、昨年度より1.4%減少している。今後も面談等を通して生徒理解を深め、情報共有しながら指導に当たってきたい。</li> <li>・コロナ禍以降、生徒・保護者の遅刻や欠席に関する意識が低くなっている傾向がある。2学期終了時までの1日平均遅刻率は1.5%であり、目標を上回ってしまった。欠席については、どの月も1ヶ月あたり3日以上欠席した生徒は1%を超えており、目標を大幅に上回ってしまった。時代の流れとは言うものの欠席に対する意識が変わってきているのが現状であり、生徒だけでなく保護者とも協力しながら、引き続き指導していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS、いじめの問題が気になった。交通事故も携帯電話をいじって自転車に乗って起こっているのか。携帯電話をいじることによって事故やいじめに繋がることがあるのか。</li> <li>・8月にいじめ防止フォーラムに出席し、小・中・高・特支のグループで話をした中でも携帯電話を使用したSNSでのいじめが挙げられていた。小学生から指導をする必要性があると思った中で、根気強く学校でも行って欲しい。</li> </ul>
		⑨学校生活で部活動・生徒会活動等に積極的に取り組んでいる生徒が70%以上である。	○新入生歓迎会で部活動の取り組みを発表する。 ○校内に部活動紹介ポスターを掲示する。	C	B	B		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	⑩「いじめのない学校生活を送れている」と感じている生徒が99%以上である。	○各学期に学校生活アンケート調査を実施する。 ○年に2回いじめ防止アンケートを行い、必要に応じて面談をする。 ○生徒会中心にあいさつ運動やいじめ防止を呼びかけるポスターを作成する。	C	B	B		
		⑪「悩み相談を親身になって対応してくれている」と感じている生徒が80%以上である。	○二者面談、三者面談を通して生徒理解を深め、個々の生徒に対応する。	A	B	A		
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫1日の平均遅刻者が1%以下である。	○家庭と連携をとりながら、生徒の怠惰による遅刻をなくす。 ○回数に応じた段階的指導を行い、生徒自身に自覚が芽生えるように指導する。	B	-	B		
			⑬欠席が1ヶ月あたり3日に達した生徒が1%以下である。	○該当の生徒と面談をし、適切なアドバイスをする。 ○保護者との連絡を密にして協力関係を築き、指導に当たる。	C	-		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を、外部講師等を活用して各学期に1回以上実施する。	○進路講演会(キャリアセミナー)を実施する。 ○生徒の希望に応じた企業・学校説明会、進路ガイダンスを実施する。	A	-	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期終了時点までに、キャリアセミナー、進路ミニガイダンスを実施した。自己の生き方と将来の職業との関連を幅広く考えさせる活動は重要であるため、次年度も引き続き実施していく。</li> <li>・進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒は84.3%であった。引き続きLHR等を利用し、進路について自分事としてとらえ、考える時間を確保していく。</li> <li>・新規指定校や就職先開拓については、次年度以降も引き続き行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級学校から新規に進学指定校を得られたことは大きな実績になっている。来年度以降も続けて欲しい。</li> <li>・在校生が先輩に質問をしやすいような工夫をして学校行事が開催できるとよい。</li> </ul>
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	○進路希望調査の結果をもとに、面談等で利用できる資料等を作成し、担任に提供する。 ○新規指定校・就職先開拓を行う。 ○進路室を整備し、生徒・保護者が利用しやすい環境を作る。	C	B	B		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯「学校の教育活動の様子がよく分かる」と考えている保護者が80%以上である。	○SDGs井上浦造みらい塾の活動を中心に、地域支援等に関わるポスターやフライヤーを掲示・配布する。 ○学校Webページを適宜更新するとともに、周知を図る。	C	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs井上浦造みらい塾の生徒たちが、地域の魅力を発信するポスターを作成し、校内だけでなく、地域の方々にも広く配布した。来年度も引き続き発信活動に力を入れ、本校の探究の特色を多くの方に知っていただけるように工夫していく。</li> <li>・SDGs井上浦造みらい塾の活動報告を毎月でまとめ、校外にも積極的に発信した。来年度もみらい塾生で分担をし、活動報告の制作に力を注ぎたい。</li> <li>・総合的な探究の時間において、地域やジェンダー、国際理解など、様々な立場の方をお招きし、講演会を実施することができた。その結果、生徒たちの視野を広げることができたと感じている。来年度も、様々な分野の第一線で活躍する方々の講演会を企画し、生徒たちに多様な視点で物事を考える機会を多く与えていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校で行っている「SDGsみらい探究」と「井上浦造みらい塾」の関連が分かるとうい。</li> <li>・探究活動を通してどのような成果をあげたのかを示す必要がある。</li> <li>・探究活動の内容を保護者にもPRすることで、保護者の理解度を高めることができる。</li> <li>・教員が探究する姿を見せることで生徒も自分の主張ができるようになっていくのではないかと。</li> <li>・探究の進め方については、グループディベート型など、発信する活動を多くするとよい。</li> </ul>
		⑰地域や社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施する。	○ロータリークラブ会員による進路活動に向けた模擬面接や講演会を実施する。 ○総合的な探究の時間を中心に、様々な立場の社会人による講演や授業を行う。	A	-	A		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑱ICTを活用した授業に、満足している生徒が70%以上である。	○教職員が互いにICTを活用した授業を見せ合い、授業力向上を図る。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業における生徒の満足度は91.0%で、目標を大きく超えた。また昨年度に続きICT機器を使った授業が増え、今年度は97.8%(前年比+16.7ポイント)の職員がICTを授業にて活用できていると回答した。次年度の課題として、各教諭、教科で蓄積したノウハウの共有を図っていく必要がある。</li> <li>・昨年度に続き、職員会議は職員室の机上パソコンでPDF化した資料を用いている。今年度はkinakoやクラスルームを活用し、資料の共有を行った。今後も継続しつつ、ペーパーレス化を推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者ともにICT活用に関して9割程度が満足していると回答しており、ICTが不可欠となった現代の状況を鑑みて同程度以上の水準を維持していくことが必要である。</li> <li>・来年度からBYODが本格的に始動するため、職員より一層のICT活用が求められるだろう。</li> </ul>
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑲ペーパーレスの職員会議を90%以上実施している。	○職員掲示板(kinako)や共有フォルダ・クラスルームを活用し、資料の共有を図る。	A	-	A		